

平成29年

能 泉 涌 流 多 喜

第七十五回

平成二十九年十一月十一日(土) 一時始

玉 葛 高林昌司

清 水 茂山千三郎

独吟遊行柳 高林白牛口二

望 月 高林呻二

主催 高吟会

大江能楽堂

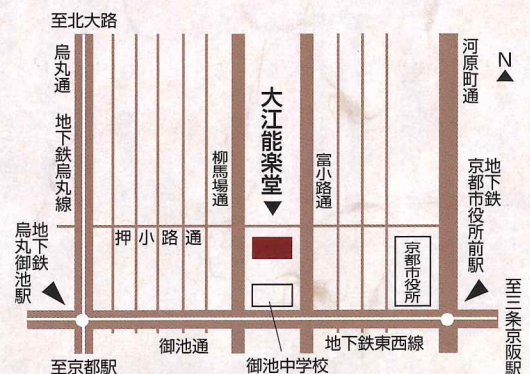
京都市中京区押小路通柳馬場東入ル 電話 075-231-7620

入場料 前売 9,000円 学生券 5,000円
当日 10,000円 全席自由席

問合せ 〒603-8354 京都市北区等持院西町15 高吟会
電話075-462-1490 FAX.075-463-3494

E-mail koginkai@ares.eonet.ne.jp

URL <http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/>



地下鉄「烏丸御池」または「京都市役所前」下車。徒歩約10分。

動静以天地
視哉涌泉美
鈿之翁

涌泉能番組

高林昌司

玉

葛

広谷和夫

河村大
曾和鼓堂

森田保美

間

松本

薫

清

水

茂山千三郎

茂山童司

遊行柳

高林白牛口二

休憩二十分

望

月

江崎欽次朗

亀井広忠
成田達志

前川光範
杉市和

高林呻二

間

茂山

茂

世阿弥が能役者に遺したものの

高林白牛口二

この論は私の個人的見解でして、学術的には間違っているかも知れませんが、私が八十年の舞台生活の中で、実践的に感得した結果を述べています。

世阿弥の書き遺したものは、全てに於いて素晴らしいものです。六百年を経た今日に於いても、その神髄にあるものは微動だにしません。

しかし、世阿弥の書き遺したものを、盲目的に読んではいけなと思います。世阿弥が何を思って、誰を相手に書き遺したものであるかを心得て読まないで、誤解を生じる危険性があります。世阿弥が比較的若い時代に識したものは、自分の後継者に与えるために書き識したものと考えるべきと思います。非常に具体的に演出についても、或いは心得についても書かれています。時を経て年齢を重ねて、晩年近くに於いて書かれたものは、逆に能を精神的に解剖して、その究極の心得を説いているように読めます。

私自身が得た、永年の舞台上の経験に基づいて、世阿弥の論説を読み説くと、世阿弥の真意が明瞭に理解出来ます。非風は風の論や、意識超意識の論など、全く私の目指してきたもののもののように思えます。随分思い上がったように思われるかも知れませんが、実際に舞台上に立って能を舞い続けて体得した結果、到達した心境です。誰にも引けを取る事ではありません。

それだけに余計に、体力の衰えが恐ろしいのです。老体に鞭を打って奮い立つ事も、ある意味では必要かも知れません。しかし、それにも限度があります。元気なうちに終止符を打つ事の大切さを身を以て感じています。観て頂く方々に心配を掛けたり、または憐れみを感じさせたりしては、晩節を汚すなものでもありません。これは私の美学です。

次回予告

平成二十九年十一月二十二日(水)十八時始

高林白牛口二の謡を聴く会

於 喜多能楽堂

一曲独吟

卒都婆小町

高林白牛口二

一調

龍田

高林白牛口二 小寺真佐人

主催

高吟会

許可なく写真撮影録音録画は、堅くお断り致します。携帯電話 ポケットベル 時計のアラームは、予めお切り下さい。